

授業科目名	共生と日本社会(2000051)		
時間割名	共生と日本社会(43203)		
時間割担当	武谷嘉之		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	木・3		

授業の目標・概要

「共生社会を目指そう」という呼び掛けに反対する人はほとんどあるまい。しかしながら、共生社会とは何かという問いかけに明確に答えられる人もほとんどいないのではないか。本講義では本大学の基本的な考え方の一つである「共生」について概括的に学んだ上で、現代の日本において共生をめぐる問題となっている事柄を学ぶ。共生は直感的に受け入れやすい言葉である反面、非常に多義的で厳密な定義の難しい言葉である。そこで共生についてなされている様々な議論を紹介し、日本社会との関係を考察する。共生という用語が生まれた背景や歴史について解説し、現代社会が抱える諸問題の切り口として共生がもつ可能性と意義を論じる。具体的な問題として、在日外国人の問題と、異性間の共生について考える。

学習の到達目標

まず共生をぼんやりとしたイメージではなく、具体的な事実として認識できるようになること。次に共生を取り巻く問題を論理レベルと事実レベルの両方で理解すること。さらに日本における共生のあり方について歴史的な経緯を前提として、自分なりの見解を持つことができるようになること。

授業方法・形式

講義形式で行うが、グループワークやディスカッションをするので能動的に参加する必要がある。

授業計画

- 1 授業の説明：共生を考える意味
- 2 共生とは何か？何が問題なのか？
- 3 共生をめぐる議論の現状
- 4 共生をめぐる議論の現状
- 5～9 日本の共生問題 在日外国人 ～
- 10～14 日本の共生問題 女性と男性 ～
- 15 まとめ 日本における共生をどう捉えるか

成績評価の基準

グループワーク、ディスカッション(40%)、定期試験(60%)による。

授業時間外の課題

適宜、指定した参考書の中から、参考にすべき部分、重要な部分を指摘するので、該当箇所については予習復習をすることが望ましい。

メッセージ

これからの社会は、これまでとは違った新しい価値観が求められています。この授業がその手がかりとなれば何よりだと主言っています。

教材・教科書

教科書は用いないが、参考書の購入を強く勧める。

参考書

橘木俊詔編『共生社会を生きる』見洋書房